

タイヤの役割を理解し、安全に走ろう

① タイヤの4つの役割

タイヤには、次の4つの大きな役割があります。

- ① 車の重量を支えて走る。
- ② 駆動力・制動力を路面に伝える。
- ③ 路面からの衝撃を緩和する。
- ④ 方向を転換・維持する。

こうした役割に加え、最近では経済性、安全・耐久性、環境に配慮した対策が講じられています。

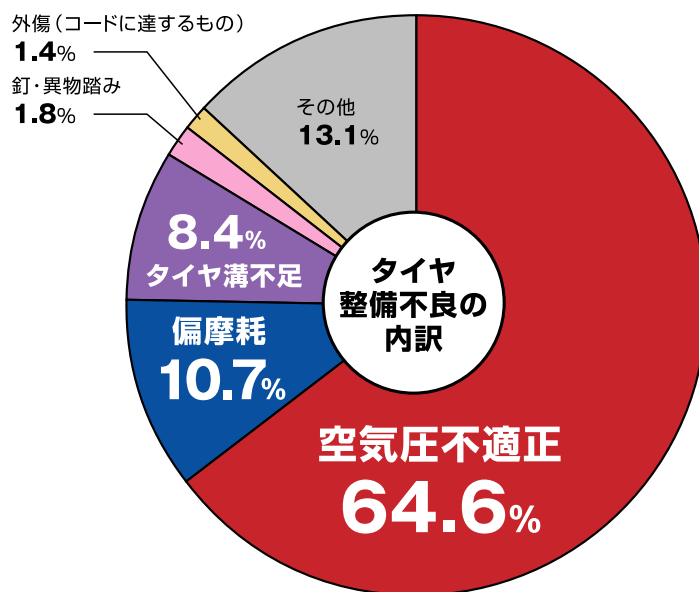
このように、タイヤは自動車にとって非常に重要な部品の一つであるにも関わらず、自動車ユーザーの関心が高くないのが現状です。もう一度、タイヤの役割と重要性を再確認し、安全運転の一助にしてください。

② 空気圧不適正がもたらす危険

昨年、(社)日本自動車タイヤ協会が実施したタイヤ点検では、対象2,178台のうち641台に整備不良箇所がありました。整備不良のトップは「空気圧不適正」64.6%。次いで「偏摩耗」10.7%、「タイヤ溝不足」8.4%と続きます。「空気圧不適正」は、例年、整備不良のトップを占め、空気圧に対するユーザーの認識不足がうかがえます。

なかでも空気圧が過不足しているタイヤは、燃費の悪化、タイヤ寿命の低下、バースト、スタンディングウェーブ現象など、さまざまな弊害を招くおそれがあります。とくに、高速道路を走行中にタイヤのトラブルが発生すると大惨事につながりかねません。

タイヤの空気圧には、常に気を配り、適正な空気圧を保つようにしましょう。



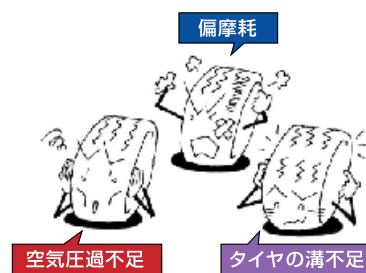
※JATMAニュースNO.1136のデータを元に作成



スタンディングウェーブ現象

スタンディングウェーブ現象は、高速で走行するときに、連続したタイヤのたわみによりタイヤが発熱し、最後はタイヤ剥離やバーストが発生する現象です。スタンディングウェーブ現象は、空気圧が低いときに発生しやすいため、スピードを落とすとともに空気圧を適正に保っておくことが大切です。

タイヤの整備不良御三家



③ スリップを招く摩耗タイヤ

走行安定性を損なう タイヤは車の重量を受けて路面と接する部分が少したわみます。たわんだままでは、タイヤが路面にしっかり接地せず、不安定な走行になりますが、タイヤに縦横の溝があることで、たわみを吸収し接地面を安定させているのです。

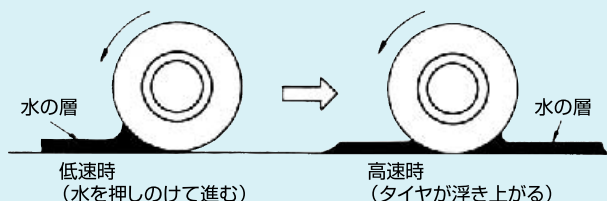
しかし、タイヤが摩耗して溝が減ると、たわみの影響を受け、グリップ不足やコーナーでの踏ん張りが効かなくなり、カーブではみ出しなどにもつながります。

スリップしやすい タイヤの溝には、タイヤと路面の間に入り込んだ水を排出する役割があります。タイヤ

と路面の間の水を溝が排出することで、タイヤはスリップせずに安全に走行できるのです。この溝が浅くなると、排水機能が低下し、グリップ力などが著しく低下し、スリップしやすくなります。そして高速走行時には、摩耗したタイヤほどハイドロプレーニング現象が発生しやすくなります。

このようにタイヤの摩耗は、車の性能を大きく低下させ、安全運転にも支障をきたします。空気圧と同様に、定期的にタイヤの摩耗チェックを行いましょう。

ハイドロプレーニング現象



ハイドロプレーニング現象とは、タイヤの溝が路面の水を排出しきれずに、タイヤが路面から浮き上がり、水の上を滑走し、ハンドルもブレーキも効かなくなる現象を言います。ハイドロプレーニング現象を防ぐには、次の4点をしっかり守りましょう。

- ① 摩耗したタイヤを使用しない
- ② 適正な空気圧に設定しておく
- ③ 排水効果の高いタイヤを使用する
- ④ 雨天時には、高速走行を避ける

④ 日常点検でのチェックポイント

タイヤの点検は、日常点検項目に入っています。点検ポイントは、次のとおりです。

① 空気圧が適正かどうか

タイヤは適正な空気圧が充填されて初めて、本来の性能を発揮します。1か月に1回は空気圧のチェックを行いましょう。

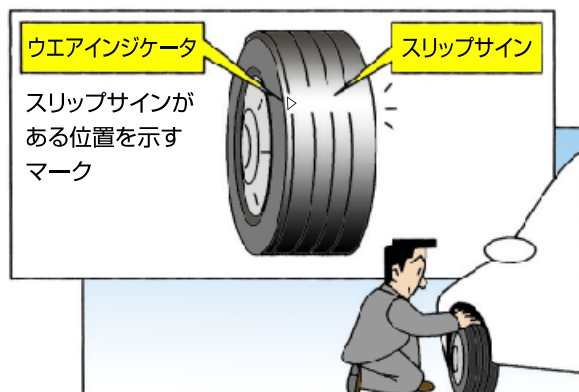
② 亀裂や損傷、異物はないか

タイヤに亀裂や損傷があると、走行中にタイヤが破損するおそれがあります。運転前に、亀裂や損傷がないか、小石などが詰まっていないかしっかり確認しましょう。

③ 異常な摩耗はないか

タイヤは一般道路では、残り溝が1.6mm以下のものは使用してはいけないことが、道路運送車両法の保安基

準に定められています。この残り溝1.6mmを示す目印としてスリップサインがあります。このサインが出たら、使用を中止し、すぐ新しいタイヤに交換してください。



東京海上日動リスクコンサルティング(株)の自動車事故削減プログラム

東京海上日動リスクコンサルティングでは、カメラ付きドライブレコーダを使用した自動車事故削減プログラム(法人向け)をはじめ各種事故削減メニューを取り揃え、ご提供しております。詳しくは、03-5288-6586(担当:西村・阿部)までお問い合わせください。HP(<http://www.tokiorisk.co.jp/>)

ご用命・ご相談は…

「やすらぎ」の設計が私たちの使命です。

保険システム株式会社
INSURANCE SYSTEM CO., LTD

〒950-0087
新潟市中央区東大通2-4-1 新潟パナソニックビル6F
TEL 025-243-7374 FAX 025-243-0921
E-MAIL yasuragi@hokensystem.co.jp
URL <http://www.hokensystem.co.jp>

東京海上日動火災保険株式会社

企業営業開発部

〒100-8050 東京都千代田区丸の内1-2-1
TEL 03-5288-6589 FAX 03-5288-6590
URL <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

担当営業課